

法人名 ワンランド株式会社

代表者名 代表取締役 橋本善一

介護・医療連携推進会議 議事録

事業所名	ワンランド定期巡回郡山		
所在地	郡山市小原田3丁目 22-22 サンライズ 103		
担当者名・連絡先	管理者 浦山加代子	TEL 024 - 973-6656	
従業者数	従業者総数 16 人 (内訳: 常勤 11 人、非常勤 5 人) (6 年 7 月 11 日現在)		
会議の開催日	令和 6 年 7 月 11 日 (令和 6 年度 第 1 回)		
会議の出席者	所属 (団体等) 名	職名	氏名
利用者	—	—	(欠席)
利用者の家族	—	—	(欠席)
地域住民の代表者	芳賀・小原田地区町内会	会長	越田 敏和
地域の医療関係者	いずみ訪問看護ステーション		佐藤 由布
地域の医療関係者	在宅看護センター陽だまり	管理者	宮本 順子
地域の医療関係者	在宅看護センター陽だまり		作田 千秋
地域の医療関係者	星訪問看護ステーション	管理者	影山 啓子 (欠席)
地域包括支援センターの職員	芳賀・小原田高齢者あんしん <small>地域包括支援センター</small>		大野 佳南
知見を有する者等	小原田地区民生委員	民生委員	真壁 久幸
知見を有する者等	エイワン居宅支援事業所	管理者	石橋 良子
知見を有する者等	SONPO ケア郡山居宅事業所		萱野 明子 (欠席)
利用者の状況	利用者総数 28 人 (6 年 7 月 11 日現在) うち、事業所と同一建物に居住する利用者数 0 人 要介護 1 : 13 人 要介護 2 : 8 人 要介護 3 : 3 人 要介護 4 : 3 人 要介護 5 : 1 人 — — —		
会議の協議内容	<p>議長の法人代表の橋本のあいさつから議題に入った。</p> <p>出席者の確認と自己紹介から始まり、事業の利用者数の紹介があり、介護・医療連携会議の開催義務付け資料が説明された。その中で、第三者評価の外部評価のお願いがあった。今回の資料に添付してあるので、1ヶ月を目途の事業所に届けるか、連絡してもらうよう説明された。</p> <p>続いて、前回の介護議事録の説明がされた。</p> <p>会議の内容も大事ではあるが、せつかく時間を割いて集まっていたので、我々が何ができるかを深堀できるような会議にしたい旨が法人代表から説明された。</p> <p>介護事業者として、又は地域の代表としてや地域の医療関係者として、何か、事業所に持ち帰り問題提起できたり、家庭でも何か問題提起できるような関係でありたいと付け加えられた。</p> <p>次に、ワンランド定期巡回郡山事業所の、直近3ヶ月の定期巡回回数と随時対応回数などが説明され、1回当たりのサービス訪問時間に目を向けていた旨が報告された。</p> <p>平均11分ということは、訪問介護の20分の時間より短めで、サービスが行われている事の証明であるとなった。定期巡回型の特徴であると報告された。訪問時間帯も説明された。</p> <p>次に、厚労省の資料で、定期巡回訪問介護の利用者数目標が1日15万人であるため、まだまだ増やしていかなければならない数値であるとなった。</p> <p>別件で、令和6年度介護報酬改定で、定期巡回型訪問介護の報酬も減額されたが、現実には、今年度上半期、全国で81社訪問介護会社が倒産しているのも事実であると報告された。</p> <p>では、福島県の定期巡回型利用者は、どの程度いるのか資料を元に説明された。続いて郡山市も説明された。まだまだ、増やしていかなければならない数値との説明になった。</p> <p>では、介護保険料はどうか、資料を元に説明された。福島県の介護保険料、郡山市の介護保険料を資料の通り説明された。2040年の介護保険料も説明された。</p> <p>続いて、事業所の介護サービスで大事なこととして、自立支援について資料を元に説明された。</p> <p>次に、今回の法改正で、事業所としてや、法人として、次年度までに「書面掲示」の必要性について説明され、事業所としても法人としてもホームページですでに準備していることも説明された。最後に、社会保険証が12月2日で現行の保険証は発効されなくなる旨が説明された。</p>		

	<p>次に、事業所管理者から利用者の事例報告がされた。出席者から転倒した時の対応などの質問がされ、外部に伝える方法などが話された。認知症の利用者だと、中々難しい面がたくさんあると説明された。地域の医療関係者でも、電話で転倒した旨の連絡があるとのことで、緊急を要しないこともある事も付け加えられた。</p> <p>出席者からは、最近では熱中症の問題があり、エアコンをつけるように促すが、電源を切ってしまう人が多いのと、厚着をしている人も多いとのことだった。</p> <p>別件で空家問題が取り上げられた。郡山市の空家問題資料を元に、2000件ある。全国で800万戸ある説明から、この会議をしている施設は、家賃が3万円で満室であるので、何とか我々のような高齢者を支えている仲間で、1人でも多く、住まいの確保の支援ができればいいのではないかと法人代表から報告された。</p> <p>空家問題を、みんなで考える。ことが大事だろうとあった。</p> <p>出席者からは、在宅で住んでいて、こんな施設に入れる人は幸せであると報告され、多くの高齢者は劣悪な環境で何とか暮らしている人がたくさんいると報告された。</p> <p>1ヶ月の費用が3万円程度で暮らしている人がたくさんいるとのことだった。</p> <p>そういうことも、我々、関係者でシェアハウスのような空家開拓から進めて行ければと出席者全員で共有された。</p>
<p>苦情の状況</p>	<p>(直近約3か月又は前回報告以降)</p> <p>特になし</p>
<p>事故の状況</p>	<p>(直近約3か月又は前回報告以降)</p> <p>特になし</p>
<p>その他の報告事項</p>	<p>特になし</p>
<p>評価、要望・助言等</p>	<p>特になし</p>